

頁	行	正	誤
2	15	考え込んでいるのではないか、いったい、	考え込んでいるのではないかと、いったい、
	// 29	そういう事態が実は	そういう問題が実は
3	6	今度の場合も外側から、二通りに	今度の場合も外側から、ある問題を二通りに
	// 11	もっていつているんだ、というような意見	もっていつているんで、そのような意見
	// 13	批孔問題はのっかっている	この問題はのっかっている
4	29	五・四以後から	孔子以後から
5	25	“中国古代社会史”(1949年刊)	“中国古代社会史研究”
10	8	「僕は非常に複雑な気持でみるのは、」	僕は非常に複雑な気持でみるのは、そして
	// 27	実はそういう論が、	実はそういう問題の論が、
14	28	趙紀彬	趙起彬
	// 29	趙紀彬	趙起彬
15	10	趙紀彬	趙起彬
	// 11	趙紀彬	趙起彬
16	3	批判などを出しておられまして(朝日新聞、1974・2・19夕刊)、これなどは	批判などを出しておられまして、これなどは は
	// 8	例えばシュヴァイツァがですね、	例えばシュワルツがですね、シュワルツが 実は
	// 9	ファンジやなくて～シュヴァイツァ	ハノンジやなくて～シュワルツ
	// 10	そうそう、例えば岩波新書「アフリカの心」の著者N・シトレです。	シュワルツを批判した本が出ました。エン マルクでしたかね。
	// 16	例えばスレーマン・ムーサーです。	始めた人がいるんですね。〇〇〇〇

[所 報]

○ 運営委員会・事務局合同会議。1974年6月15日(土) 午後1時より 神田校舎12A会議室 出席者 江沢所長、佐藤経済学部長、内田・大友・森下3部長、福島・望月・吉沢運営委員、西岡事務局長、加藤(佑)・吉家・栗木・黒田・隅野・殿村・鍋島・二瓶・土方・宮下事務局長

議題・1. 西岡事務局長の入院(6月17日より)による辞任申し出の件、了承(後任事務局長選任の件は、意見交換が行なわれて、事務局会議に委ねられた)。2. その他(重要事項)。

○ 事務局会議 1974年6月15日(土) 前記運営委員会・事務局合同会議終了にひきつづき、社研神田分室にて行なわれ(出席者、江沢所長ほか8名)、鍋島所員が事務局長代行として、委嘱された。

○ 事務局会議 1974年6月21日(金) 午後2～7時 社研神田分室 出席者9名。

第23回定例総会に関する案件

1. 事務局、一般・各部報告などについて。2. 昭和48年度研究経過報告ならびに決算報告について。3. 昭和49年度研究活動計画案ならびに予算案について〔「京浜・京葉工業地帯の総合調査」(仮題)。創立25周年記念行事、事務局運営、特別会計設定の件など〕。4. 合宿プランの訂正と再通知の件について。5. その他〔事務局各部活動の相互連繫など〕。

○ 運営委員会・事務局合同会議 1974年6月22日(土) 午前10時30分—午後零時30分 出席者 江沢所長、吉沢運営委員、ほか7名。

第23回定例総会に関する案件 6月21日(金)の事務局会議の議題とは別に、1. 所員名簿の確定、2. 新任4所員の委嘱、3. 事務局長代行を事務局長に置きかえ、その任期は西岡前事務局長の残任期間(1975年3月まで)とし、総会に諮る件、4. 運営委員、所員、所外研究員の構成などについて、運営委員会の検討事項として総会に報告する件、5. 野原四郎所員の退職により、所外研究員を委嘱する件が決定された。

○ 第23回定例総会 1974年6月22日(土) 午後1時30分—7時 神田校舎12A会議室 出席者22名、委任状24名(所員74名)

1. 江沢所長挨拶
2. 鍋島力也所員に事務局長委嘱の件、承認。
3. 新任所員— 島 恭彦(推薦・木崎所員)、古島敏雄(同・森下(澄)所員)、水川侑(同・高橋(七)所員)、常行敏夫(同・吉沢所員)の4氏紹介。なお、社研専任職員の杉本かほるさん(東経大卒)が、紹介された。
4. 事務局の構成確認。事務局長・鍋島力也、財政・二瓶 敏・黒田彰三、研究会・栗木安延、編集・殿村晋一・土方 保・宮坂 宏・池田博行・木崎喜代治、文献資料・宮下誠一郎・加藤佑治・隅野隆徳、以上12名。産構研編集委員・玉垣良典・西岡幸泰・鍋島力也(以上、センター)・正村公宏・宮田三郎、以上5名。

議題

1. 昭和48年度研究活動経過報告ならびに決算報告。

(1) 一般報告。『社会科学年報』第8号の「所報」(西岡前事務局長の稿)により行なわ

れた。

(2) 各部報告，研究会（栗木所員），編集（殿村・池田所員），文献資料（加藤（佑）所員），産構研（鍋島所員）。

(3) 決算報告（二瓶所員）承認

2. 昭和49年度研究活動計画案ならびに実行予算案

(1) 昭和49年度研究活動計画案の審議決定に関連して，創立25周年記念行事について，森下（澄）準備委員長のもとに3～4名の実行委員が参加して，11月後半を目途にプランを具体化すること，などが決定された。

(2) 昭和49年度実行予算案について，二瓶所員の説明にもとづく審議の結果，提出された予算案を承認決定し，後日の総会で補正予算を組むこととされた。また，特別会計については，これを設定する方向は確認されたが，その具体策については継続審議事項となった。

3. その他，(1) 運営委員会の検討事項として，所員名簿の確定・運営委員会の構成・所外研究員の性格規定とその確定などについて，慎重・公正に検討し，本年度中に成案を得ること，とされた。(2) 神田分室の整備・管理案について，その方向が承認された。

総会配布資料：— 所員名簿，昭和48年度決算書（案），昭和49年度研究活動計画書（案），昭和49年度予算（案），産構研執筆予定メンバー表。

○ 事務局会議 1974年7月3日（水）午後2～6時 社研神田分室 出席者9名。

議題 1. 事務局運営について— 過去と現在— 2. 「月報」・『年報』の編集・その関連について 3. 予算について 4. その他，配布資料：— 社会科学研究所（1963—74）。所員名簿（1974.6.22現在）。この事務局会議で，運営委員会・事務局体制についての事務局案が決定され，運営委員会・事務局会議に提出することとなった。また，『年報』の編集に関連して，社研の独自性・存在理由にまでおよぶ議論がかわされた。

○ 合宿研究会 1974年7月8日（月）・9日（火）

第I部 研究会 7月8日 午後1時～6時 会場・鋸山観光ホテル 出席者23名。

報告 1. 長沼事件判決をめぐる憲法的諸問題（「産構研」メンバー報告）

隅野隆徳所員 司会 宮田三郎所員

2. 韓国の経済と経営（現地調査報告） 山田一郎所員 司会 江沢譲爾所長

3. 「産構研」メンバー報告— 鉄鋼生産構造研究資料 鍋島力也所員

☆打ち合わせ会・7月9日（火），午前9時30分～11時30分— 「産構研」のプランについて。社研事務局体制について，など。

配布資料：— 各報告者レジュメ，「戦後鉄鋼『合理化』と労働力編成の変貌 — 大手独占体制製鉄所調査を中心として —」北海道大学教育学部 道又健治郎（1974年度 土地制度史学会・春季総合研究会資料）。「産構研」執筆予定メンバー・レジュメ，「専修大学社会科学研究所（1963—74）」。

第Ⅱ部 調査研究会 7月9日 午後1時30分～5時 千葉県職員会館 出席社研所員15名。

論題 千葉県第4次総合5か年計画を中心に — 臨海工業地帯の開発からの転換 —

報告者 千葉県企画部企画課長 古谷康長氏，同企画第2係長 鈴木 均氏，千葉県企業庁臨海事業部管理課調整班 池田吉成氏。

配布資料：— 千葉県開発庁『十年のあゆみ』，千葉県企画部企画課編・発行『千葉県第4次総合5か年計画』（昭和48年6月），千葉県総合計画図（昭和49年3月）。

追記 この研究会で，千葉県に依頼した資料が送付されてきている。

1. 「臨海地帯製造業の開発効果分析報告書（昭和48年度 千葉県開発庁臨開発局委託調査）」
2. 「千葉県立地企業名簿（昭和48年度12月末日現在）」
3. 「昭和45・46年度地価調査」
4. 「千葉県勢要覧（昭和48年度版）」
5. 「千葉県統計年鑑（昭和48年）」
6. 「千葉県長期計画書（基本計画）」
7. 「千葉県第2次総合5か年計画」
8. 「千葉県第3次総合5か年計画」 以上各1部

○ 運営委員会・事務局合同会議 1974年7月30日（火） 午後2時～7時 神田校舎12A会議室 出席者 江沢所長 佐藤経済学部長，大友第2部長，望月運営委員，鍋島事務局長，加藤（佑）・二瓶事務局長。

議題1. 社研所員，所外研究員，運営委員会および事務局の構成について。

(1) 運営委員会の構成について。「規程」第9条第2項を改訂する方向として，運営委員会を，所長，経済学部長，第1部＝総合理論部門・第2部＝実体部門・第3部＝歴史部門の各部長，前任の事務局長，事務局長および所長の委嘱する5名以内の所員（但し，経済学部長はその任期限り，前任の事務局長は2年限り，および委嘱運営委員は委嘱した所長の任期限り）をもって組織することを確認し，1975年3月までは，江沢所長，佐藤経済学部長，内田第1部長，大友第2部長，森下第3部長，西岡前任事務局長，鍋島事務局長および石渡（貞）・打

田・加藤(幸)・玉垣・福島・望月・吉沢各委嘱運営委員で組織されることが確認された。

(2) 所員・所外研究員などについて。所員については、所員名簿(74名、1974年6月22日現在)を確認し、所外研究員については、任期を規定することを含め実質的に社研の研究活動に寄与する研究者として検討する方向での継続審議事項とした。また、前所長などについて参与として委嘱することを「規程」にもりこむことも検討事項として決定された。

なお、これらに関連して、「規程」の大改正ということではなく、「規程」を最大限生かすなかで、運営上の細則として決めていく方向で努力していくことが確認された。

(3) 会議の種類について。「規程」では、所員総会(定例・臨時)、運営委員会が規定されており、これに事務局会議が加わって、3種類・3段階の会議として発足したものが、その後の経過の中で、運営委員会の内部に運営幹事会が(1967年5・6月)、事務局の内部に事務局常任委員会が(1968年4月)設置されて、5種類・5段階の会議で運用されることになってきており、これが実状にそぐわず、社研の活動に円滑さを欠く危険もあることを反省。運営幹事会、事務局常任委員会を廃し、社研の会議は、原則として、事務局会議、運営委員会・事務局合同会議および総会(定例・臨時)の3種類=3段階で運用することとする事務局案が承認された。

(4) 事務局の構成について。編集担当責任者に池田所員、産構研編集関係に加藤(佑)所員が新たに加わることが了承されたほか、なお事務局で全体的に検討することが確認された。

議題2. 予算について。一般会計については、定例総会(6月22日)で承認決定され、学長あて提出(6月27日)した予算を再確認し、特別会計については内部運用として検討を加えることになった。

議題3. 社研創立25周年記念行事について。森下(澄)準備委員長の「案」にもとづく検討が行なわれ、実行委員長に江沢所長、実行委員に、佐藤・内田・大友・森下(主務)・打田・吉沢・望月・加藤(幸)の各運営委員および事務局から鍋島・二瓶の両所員が加わることになった。なお、この件についての主要検討事項として、記念講演会、記念祝賀パーティ等があげられ、討議結果の整理には望月実行委員があたることとなった。

議題4. その他。特に、編集の関連で、まず『年報』第8号の刊行について、未来社(田口氏)からの申し出の件についての経過報告と社研としての態度決定がなされ、現在、池田所員を中心として進められている第9号の編集に関連して意見が交わされた。(鍋島)

神奈川県川崎市多摩区生田 4764
専修大学社会科学研究所
電話(044) 911-7131 (内線63)
(発行者) 江沢 謙 爾